

令和5年度

日本語教育能力検定試験

2023 JAPANESE LANGUAGE TEACHING COMPETENCY TEST

受験案内

令和5年度より、出願はオンライン出願となります。

本受験案内を熟読し、記載内容に同意のうえ、出願をしてください。

出願をもって、記載事項全てに同意したものとみなします。

試験日 令和5年10月22日(日)

オンライン
出願期間 令和5年7月3日(月)～7月31日(月)

受験票発送日 令和5年9月22日(金)

合否結果通知書等
発送日 令和5年12月22日(金)(予定)

目次

1	日本語教育能力検定試験の概要	1
2	出願手続き	2
3	受験票の発送	4
4	試験日程	4
5	受験上の注意	5
6	合否結果通知書・合格証書の交付	6
7	合格証明書の発行	7
8	関係資料	8
9	問い合わせ先等	11

主催



公益財団法人

日本国際教育支援協会

Japan Educational Exchanges and Services

後援 文化庁/公益社団法人日本語教育学会

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所

独立行政法人国際交流基金/一般財団法人日本語教育振興協会

公益社団法人国際日本語普及協会

1

日本語教育能力検定試験の概要

■ 目的

日本語教員となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者を対象として、日本語教育の実践につながる体系的な知識が基礎的な水準に達しているかどうか、状況に応じてそれらの知識を関連づけ多様な現場に対応する能力が基礎的な水準に達しているかどうかを検定することを目的とする。

■ 主催

公益財団法人 日本国際教育支援協会（以下、「本協会」という）

■ 後援

文化庁

公益社団法人 日本語教育学会

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立国語研究所

独立行政法人 国際交流基金

一般財団法人 日本語教育振興協会

公益社団法人 国際日本語普及協会

■ 試験の水準と内容

(1)受験資格 特に制限しない。

(2)試験の水準 日本語教育に携わるにあたり必要とされる基礎的な知識・能力。

(3)試験の内容 出題範囲は8～9ページのとおりとする。

■ 試験の構成

科目	解答時間	配点	測定内容
試験Ⅰ	90分	100点	原則として、出題範囲の区分ごとの設問により、日本語教育の実践につながる基礎的な知識を測定する。
試験Ⅱ	30分	40点	試験Ⅰで求められる「基礎的な知識」および試験Ⅲで求められる「基礎的な問題解決能力」について、音声を媒体とした出題形式で測定する。
試験Ⅲ	120分	100点	原則として出題範囲の区分横断的な設問により、熟練した日本語教員の有する現場対応能力につながる基礎的な問題解決能力を測定する。

* 試験Ⅱの解答時間は目安です。

■ 試験地区

- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 北海道 | 2. 東北 | 3. 関東 | 4. 中部 |
| 5. 近畿 | 6. 中国 | 7. 九州 | |

* 都合により変更する場合があります。

* 試験地区内での都道府県は選択できません。

2

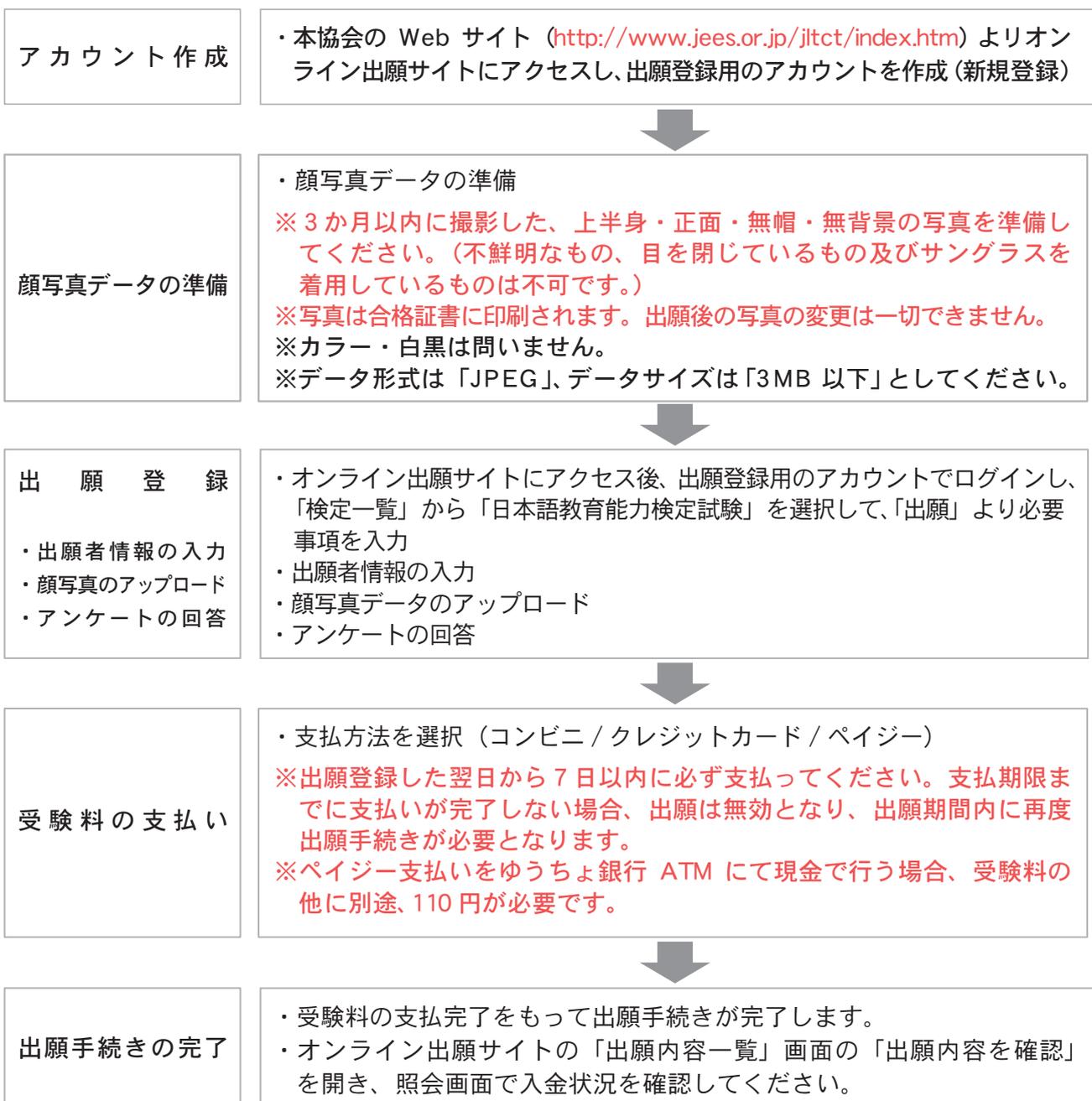
出願手続き

■オンライン出願期間：令和5年7月3日（月）0：00～7月31日（月）23：59

パソコン・スマートフォン・タブレットでオンライン出願サイトより出願登録を行い、受験料の支払いまで完了させてください。支払方法は、コンビニ、クレジットカード、ペイジーが選択可能です。

受験料：17,000円（税込）

*支払期限までに支払いが完了しない場合は、出願は無効となり、出願期間内に再度出願手続きが必要となります。



注意事項

- * 出願登録を行う前に、本協会のWebサイト (<http://www.jees.or.jp/jltct/index.htm>) の実施要項及び受験案内、オンライン出願サイトの「はじめに」及び「出願」の留意事項を必ず確認してください。
- * 出願登録は、出願開始日の0時から出願最終日の23時59分まで行うことができます。 **出願最終日は、オンライン出願サイトへのアクセスが集中して繋がりにくくなることがありますので、早めに出願してください。**
- * 受験料の支払期限は**出願登録した翌日から7日以内**です。 **出願最終日に**出願登録をした場合でも、**支払期限は出願登録した翌日から7日以内**です。
- * **受験地区内の試験会場は選べません。** 試験会場の決定は本協会が行い、受験票に記載して通知します。
- * オンライン出願サイト利用中の操作ミス、接続不良等を理由とした出願期間後の出願は受け付けません。
- * オンライン出願サイトでの出願登録完了後、**受験料の支払完了をもって出願手続きの完了とします。**
- * **いかなる理由でも受験料支払い後の出願取消及び返金には応じません。また、次回への振替もいたしません。**
- * 出願登録完了後の登録内容は、原則として変更できませんので、ご注意ください。
(受験地区変更については、下記の「受験地区変更について」を確認してください)
- * 出願登録時に入力した情報は、試験に関わる業務にのみ使用します。
- * 個人情報保護方針については、本協会のWebサイト「個人情報保護について」(<http://www.jees.or.jp/privacy/privacy.htm>) をご覧ください。
- * **出願をもって、記載事項全てに同意したものとみなします。**

受験地区変更について

出願期間後、**試験会場定員に余裕がある場合**、1人につき1回限り受験地区変更が可能です。希望者は本協会へ会場変更の可否を確認のうえ、下記の期限までに必要書類を提出してください。なお、提出期限を過ぎた場合、いかなる理由でも変更はできません。

また、同じ受験地区内での試験会場の変更はできません。

◆受験地区変更書類提出期限：令和5年8月31日（木）（必着）

【受験上の配慮をご希望の方へ】

病気や怪我、障害等のために、受験上の配慮を希望する場合は、**出願前に必ず「受験上の配慮申請書」**を本協会から取り寄せ、**期間内にオンライン出願手続きを完了させるとともに、本協会に「受験上の配慮申請書」を郵送してください。オンライン上では受験上の配慮申請はできません。**

なお、出願にあたりインターネットの利用が困難な場合はご相談ください。また、出願期間後の病気や事故等で、急遽受験上の配慮を希望する場合は、できるだけ早く本協会に連絡してください。

ただし、状況によっては対応できかねる場合もありますので、ご了承ください。

3 受験票の発送

■受験票発送日：令和5年9月22日（金）

(1)受験票の未着について

受験票が届かない場合は、**令和5年10月2日（月）以降**に本協会にお問い合わせください。

(2)受験票の訂正について

受験票の記載内容の訂正が必要な場合は、受験票のコピーを赤字で訂正し、**令和5年10月30日（月）（必着）**までに本協会に郵送してください。訂正は合否結果通知書、合格証書に反映されます。試験当日は受験票の記載どおりに受験してください。

*** 訂正内容によっては訂正できかねる場合があります。なお、住所の変更はできません。転居した場合は、必ず、郵便局に転居届を出してください。**

4 試験日程

■試験日：令和5年10月22日（日）

■時間割

	試験時間	
	試験開始時刻	解答開始時刻～解答終了時刻
開 場	9:00	
試 験 Ⅰ	9:50	10:10～11:40（90分）
昼 休 み	11:40	
試 験 Ⅱ	12:50	13:15～13:45（30分）
試 験 Ⅲ	14:25	14:40～16:40（120分）

* 試験Ⅱの解答時間は目安です。

*** 試験開始時刻までに着席してください。**

* 試験開始時刻から解答開始時刻までの間に、説明及び問題冊子等の配付を行います。

* 解答終了時刻の後、答案の回収及び確認作業があります。試験官の指示があるまで、試験室から出られません。

■ 解答方法

マークシート式ですが、一部記述式問題を含みます。なお、試験Ⅱは音声媒体による聴解試験です。

5 受験上の注意

(1) 試験官の指示に従ってください。

(2) 座席は試験会場で提示します。

(3) 次のものを必ず持参してください。

① 受験票

② 筆記用具（黒のHBの鉛筆またはシャープペンシル、プラスチック消しゴム）

* ボールペンでは採点されません。

③ 昼食（試験会場近くに、飲食店や昼食購入できる店舗が無い場合があります。）

④ メモリー機能等がない腕時計（携帯電話・スマートフォンの時計、スマートウォッチ、アラームが鳴る時計、懐中時計、置時計は使用できません。）

*** 試験室内には時計が設置されていないので腕時計を持参してください。**

⑤ 自己を証明する写真が付いた公的な身分証明書（運転免許証・学生証・社員証・パスポート・マイナンバーカード等）

* **受験票を忘れた時などに必要となります。**また、試験官から提示を求められた場合は、指示に従ってください。

(4) 試験室内では、適宜換気や空調の使用を行いますので、当日は体温調節ができる服装で来てください。

(5) 試験会場は禁煙です。

(6) 試験時間中は、帽子やサングラスを外してください。マスクを着用の場合は、本人確認の際に外してください。

(7) 全試験を受験しない者は、通常の合否判定方法によらず不合格となります。

(8) 解答開始時刻より30分（試験ⅡはCD音声再生の開始時刻13:05）を超える遅刻者は、受験を認めず、試験室への入室もできません。

(9) **不正行為を行った者には退場を命じ、成績を無効とします。**

(10) **試験室内では時計のアラーム、携帯電話等電子機器類の電源を必ず切ってください。マナーモードも不可です。電源を切っても、呼び出し音やマナーモードの振動音が鳴ったり、設定した時間にアラームが鳴ったりするものがあります。そのような種類のものとは全て試験会場に持ち込むことはできません。解答時間中に音が鳴った場合は不正行為とみなし、成績を無効とします。**

- (11)試験時間中の中途退出はできません。体調不良やトイレ等やむをえない事情の場合は試験官に申し出てください。ただし、試験Ⅱの途中で退出した場合、試験室への再入室はできません。
- (12)試験時間中の飲食（ペットボトル飲料・ガム・あめ等）はできません。
- (13)ゴミは必ず持ち帰ってください。
- (14)試験会場での事故や持ち物の紛失等に関して、本協会は一切責任を負いません。
- (15)試験実施上の事情により、試験の開始時刻や終了時刻が遅くなる場合があります。それに伴う交通機関の変更やキャンセルに掛かる手数料、その後の予定の変更について、本協会は補償いたしません。それにより受験をキャンセルしても、受験料の返金には応じません。
- (16)天災等により試験実施に重大な影響が発生した場合には、試験を中止することがあります。
- (17)自己ヘルスチェック表（本協会のWebサイト(<http://www.jees.or.jp/jltct/index.htm>)に掲載）を確認してからご来場ください。
- (18)感染症拡大等の状況によっては、検温やマスクの着用を求める場合があります。

試験の実施に関する重要なお知らせがあるときは、本協会のWebサイト (<http://www.jees.or.jp/jltct/index.htm>) に掲載しますので、随時確認してください。

6

合否結果通知書・合格証書の交付

■合否結果通知書等発送日：令和5年12月22日（金）（予定）

合否の結果は、受験者に合否結果通知書をもって通知します。

合格者には、合格証書を併せて交付します。

不合格者には、合否結果通知書に各科目の得点・総合点と、総合点が受験者全体の中でどの位置にあるかを記載し通知します。

記述式問題の採点は、マークシート式問題の得点が上位60%の受験者を対象に行います。

結果についてのお問い合わせには応じられません。

* 正答は合否結果の通知後、本協会のWebサイト (<http://www.jees.or.jp/jltct/index.htm>) にて公表します。

7

合格証明書の発行

合格証明書を発行希望の場合は、本協会のWebサイト(<http://www.jees.or.jp/jltct/index.htm>)より合格証明書発行申請書をダウンロードし、必要事項を明記のうえ、下記の添付書類と併せて本協会に郵送してください。

必要事項	①漢字氏名 ②ローマ字氏名 ③送付先住所 ④電話番号 ⑤和文・英文の別とそれぞれの必要枚数
添付書類	①合格証書のコピー ②発行手数料振込の受領証 ③返信用封筒（長形3号封筒に送付先住所、宛名（「〇〇様」まで）を記入。切手不要）
発行手数料	1通につき 1,000円
振込先	銀行名：みずほ銀行(0001) 支店名：北沢支店(213) 口座種類：普通 口座番号：1211409 口座名義：ザイ)ニホンコクサイキョウイクシエンキョウカイ ※振込人名は受験された方の氏名と生年月日(西暦)を入力してください。 ※振込手数料は、申請者様にてご負担ください。 ※発行手数料振込後の返金には、いかなる理由でも応じません。

*合格証書のコピーが用意できない場合は、必要事項に生年月日(西暦)、受験年度、受験会場を加筆してください。

*送付先住所は原則、日本国内の住所に限ります。

*合格証書の交付直後は、発行が遅れることがあることを予めご了承ください。

出題範囲

次の通りとする。ただし、全範囲にわたって出題されるとは限らない。

区 分		主 要 項 目
社会・文化・地域	① 世界と日本	(1) 世界と日本の社会と文化
	② 異文化接触	(2) 日本の在留外国人施策
		(3) 多文化共生(地域社会における共生)
	③ 日本語教育の歴史と現状	(4) 日本語教育史
		(5) 言語政策
		(6) 日本語の試験
		(7) 世界と日本の日本語教育事情
言語と社会	④ 言語と社会の関係	(8) 社会言語学
		(9) 言語政策と「ことば」
	⑤ 言語使用と社会	(10) コミュニケーションストラテジー
		(11) 待遇・敬意表現
		(12) 言語・非言語行動
	⑥ 異文化コミュニケーションと社会	(13) 多文化・多言語主義
言語と心理	⑦ 言語理解の過程	(14) 談話理解
		(15) 言語学習
	⑧ 言語習得・発達	(16) 習得過程(第一言語・第二言語)
		(17) 学習ストラテジー
	⑨ 異文化理解と心理	(18) 異文化受容・適応
(19) 日本語の学習・教育の情意的側面		
言語と教育	⑩ 言語教育法・実習	(20) 日本語教師の資質・能力
		(21) 日本語教育プログラムの理解と実践
		(22) 教室・言語環境の設定
		(23) コースデザイン
		(24) 教授法
		(25) 教材分析・作成・開発
		(26) 評価法

区 分		主 要 項 目	
言語と教育	⑩ 言語教育法・実習	(27) 授業計画	
		(28) 教育実習	
		(29) 中間言語分析	
		(30) 授業分析・自己点検能力	
		(31) 目的・対象別日本語教育法	
	⑪ 異文化間教育とコミュニケーション教育	(32) 異文化間教育	
		(33) 異文化コミュニケーション	
		(34) コミュニケーション教育	
	⑫ 言語教育と情報	(35) 日本語教育とICT	
		(36) 著作権	
	言語	⑬ 言語の構造一般	(37) 一般言語学
			(38) 対照言語学
⑭ 日本語の構造		(39) 日本語教育のための日本語分析	
		(40) 日本語教育のための音韻・音声体系	
		(41) 日本語教育のための文字と表記	
		(42) 日本語教育のための形態・語彙体系	
		(43) 日本語教育のための文法体系	
		(44) 日本語教育のための意味体系	
		(45) 日本語教育のための語用論的規範	
⑮ 言語研究			
⑯ コミュニケーション能力		(46) 受容・理解能力	
		(47) 言語運用能力	
		(48) 社会文化能力	
		(49) 対人関係能力	
		(50) 異文化調整能力	

各区分における測定内容

区 分	求められる知識・能力
社会・文化・地域	<p>日本や日本の地域社会が関係する国際社会の実情や、国際化に対する日本の国や地方自治体の政策、地域社会の人びとの意識等を考えるために、次のような視点と基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係論・文化論・比較文化論的な視点とそれらに関する基礎的知識 ・ 政治的・経済的・社会的・地政学的な視点とそれらに関する基礎的知識 ・ 宗教的・民族的・歴史的な視点とそれらに関する基礎的知識
言語と社会	<p>言語教育・言語習得および言語使用と社会との関係を考えるために、次のような視点と基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語教育・言語習得について、広く国際社会の動向からみた国や地域間の関係から考える視点とそれらに関する基礎的知識 ・ 言語教育・言語習得について、それぞれの社会の政治的・経済的・文化的構造等との関係から考える視点とそれらに関する基礎的知識 ・ 個々人の言語使用を具体的な社会文化状況の中で考える視点とそれらに関する基礎的知識
言語と心理	<p>言語の学習や教育の場面で起こる現象や問題の理解・解決のために、次のような視点と基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の過程やスタイルあるいは個人、集団、社会等、多様な視点から捉えた言語の習得と発達に関する基礎的知識 ・ 言語教育に必要な学習理論、言語理解、認知過程に関する心理学の基礎的知識 ・ 異文化理解、異文化接触、異文化コミュニケーションに関する基礎的知識
言語と教育	<p>学習活動を支援するために、次のような視点と基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習者の特質に対するミクロな視点と、個々の学習を社会の中に位置付けるマクロな視点 ・ 学習活動を客観的に分析し、全体および問題の所在を把握するための基礎的知識 ・ 学習者のかかえる問題を解決するための教授・評価等に関する基礎的知識
言 語	<p>教育・学習の対象となる日本語および言語一般について次のような知識・能力を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づける能力を有していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代日本語の音声・音韻、語彙、文法、意味、運用等に関する基礎的知識とそれらを客観的に分析する能力 ・ 一般言語学、対照言語学など言語の構造に関する基礎的知識 ・ 指導を滞りなく進めるため、話し言葉・書き言葉両面において円滑なコミュニケーションを行うための知識・能力

問い合わせ先



公益財団法人 日本国際教育支援協会
Japan Educational Exchanges and Services

日本語試験センター 試験運営課 検定試験係

住所：〒153-8503 東京都目黒区駒場4-5-29

電話：03-5454-5215(月～金(祝日を除く) 9:00～17:30)

URL：http://www.jees.or.jp/jltct/index.htm

全国主要書店にて
販売中！

令和4年度 日本語教育能力検定試験

試験問題(試験Ⅱ 聴解 CD付き)



著作・編集 公益財団法人 日本国際教育支援協会
定 価 1,540円
発 行 株式会社 凡人社
電 話 03-3263-3959